

計画 1-4

ニホンザルの採食時の繁殖個体の積極性の縦断的比較

横田直人 (大分短期大学)

餌づけされたニホンザルは、社会的順位や繁殖状態の違いにより採食量や採食戦略に差がみられるかを高崎山で追求してきた。その結果、エサの採り込み方法は低順位のオトナ雌の場合、出産によって変化する個体がいることがこれまでの横断的調査から確かめられてきた。本年度はこれまでの調査結果と合わせて、同一個体、とくに低順位のオトナ雌について繁殖状態の採食量と採食戦略の変化を非繁殖状態とで比較検討してみた。

繁殖状態にある低順位個体 (3 個体) の人工餌場での採食量は、非繁殖状態に比べて約 1.35 倍上回った。このとき、総採食時間は 1.45 倍長かったのに対して、エサの採り込み速度すなわち採食速度は 0.86 倍と短かった。繁殖状態には、1) 高順位オスと伴食することで採食時間を高める戦略 (良質の場所で長く食べられる)、2) エサパッチへのポジション移動回数を約 2 倍多くしたこと、3) 残り少なくなったエサを最後まで探し求めて食べていたことに起因すると考えられる。また、アカンボウを抱いてのエサ場への入場や、中心部でのエサ採食の頻度が極めて高いといった特徴が顕著にみられた一方で、高順位のオスや周辺のメスからの攻撃頻度も非繁殖状態に比べて 2.36 倍高くなっており、繁殖状態で積極的な採食行動の変化が目立った。攻撃されるリスクをおかしても採食量を高める戦略を低順位のオトナ雌がとっていることが確かめられた。繁殖状態から非繁殖状態へ移った年にはこの逆の傾向がみられた。

計画 2-1

Ateles と Macaca mulatta の外腹斜筋と筋内神経分布

小泉政啓, 川井克司, 前田 智, 児玉公道
(熊本大・医・第一解剖)

新世界猿 (クモザル *Ateles*) : 新世界猿では大型に入る成獣雌 1 頭について検索した。肋骨は左右とも 13 本で外腹斜筋 (OX) の起始は 5 肋骨以下胸腰筋膜までで、支配神経は Th5 から L1 である。このうち Th5 から Th9 までの外側皮枝 (Rcl) は OX の外側で胸壁を貫くが、Th10 から L1 のそれは OX を貫く。しかし OX の筋枝は全分節で筋の表面から筋に進入する点が特徴的である。筋内分布は主に 3 本の枝に分けることができる。筋内分布での筋束の起始筋腹と神経分節の関係は 6 と 7 肋骨起始筋腹に Th6, 7, 8 の 3 分節の神経が分布するのでそれ以下 1 分節のズレが起る。また Th10 は 9 肋骨起始の上半分だけを支配し、Th11 は 9 肋骨起始の下半分と 10 肋骨起始の上半分に分布するので、この筋束では 1.5 分節のズレが見られるが、Th12 は 10 肋骨起始の下半分と 11 肋骨起始筋腹全体を支配するので 12 肋骨起始筋腹では 1 分節のズレとなる。各分節の支配領域と筋束方向の関係は 8 肋骨起始筋束の腹側部分が Th10 に支配された筋束となり、以下の筋束では腹側部分が下位分節の支配を受ける。筋内での神経の交通は Th6 から Th10 と Th11 から L1 まで隣接したもの同士に見られた。

旧世界猿 (アカゲザル *Macaca mulatta*) : 成獣雄 1 頭。肋骨は左右とも 12 本で、OX は最上位の独立した 4 肋骨起始筋腹から 12 肋骨まで、さらに胸腰筋膜からも起る。支配神経は Th4 から L3 までの 12 分節であり、Rcl は Th4 から Th8 までは OX の外側で胸壁を貫き、それ以下は OX を貫く。ただし Th12 から L3 では Rcl 前枝のみが OX を貫き、後枝はより背側で腹壁を貫く。すなわちこの分節では Rcl の前枝後枝が腹壁を貫く位置は同じではなくかなり離れている。筋枝は Th4 が表面から入る以外すべて裏面から分布する。筋内分布は 4 - 8 肋骨から起始する 5 筋束はそれぞれ対応する Th4 から Th8 が分布するが、9 肋骨起始筋腹には Th9 と Th10 が分布し筋腹と神経分節のズレが起る。各筋束と神経の支配領域の関係は 8 肋骨起始筋腹の腹側下部には Th9 が分布し 2 分節筋となり、それより下位では順次腹側部分が下位分節の神経によって支配されるようにズレる。筋内での神経の交通は Th8 と Th9, Th12 から L2 に見られた。